

想い——をつらぬく。

木靴を川に浮かべ、
少女ゲルダは裸足になって旅立つ。

ぼくにとっては、運命の映画であり、
大好きな映画なんです。 宮崎 駿

СНЕЖНАЯ КОРОЛЕВА

Лев Атаманов

伝説から神話へ

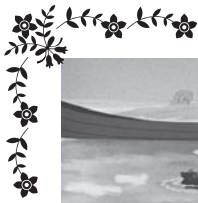
雪の女王

作品誕生50周年記念
《新訳版》



原作: H.C. アンデルセン「雪の女王」 監修: レフ・アタマノフ 脚本: L. アタマノフ / G. グレーブネル / N. エールドマン 美術: A. ヴィノクーロフ / L. シュワルツマン 音楽: A. アイヴァジャン 原題: СНЕЖНАЯ КОРОЛЕВА 字幕翻訳: 児島宏子 制作: サユースムリトフィルム
提供: 三鷹の森ジブリ美術館 / スタジオジブリ / 日本テレビ / ティズニー 配給: 三鷹の森ジブリ美術館 1957年 | ソ連 (ロシア) | 65分 | スタンダード | モノラル © 2004 Films By Jove Inc. in association with Soyuzmultfilms studio www.ghibli-museum.jp/snowqueen/

自らの運命に立ち向かう。若き宮崎駿を魅了したヒロインが、スクリーンに甦る！



ゲルダは“神話”の主人公

宮崎 駿

——宮崎監督はゲルダが大好きなんですね。

宮崎:もう、想いだけが貫かれていて、「安珍清姫」の清姫が大蛇になって追うように、火をはきながら追うようにね、あとのことは一切かまわず靴も脱ぎ捨てて裸足でとにかく荒野に出て行って、北の果てまで自分のカイという少年を連れ戻すために、心を凍らせてしまった少年を助け出すために行くわけですよ。そのけなげさに、出会った女たちがみんな彼女を助けていくって、それが琴線に触れたんです。

——ゲルダは物語の前半で、川に靴を差し出します。これから歩いていくというのに。

宮崎:そういうのって理屈がないんだよね。これから歩いていくのに、なぜ裸足で行こうとするのか。裸足になるっていうのは必要なんです。主人公はものに守られていたらダメだって。素裸にならなきゃダメだって。どんどん失くしていく。失くしていった、初めてたどり着ける場所や、手に入れられるものがあるんです。

——そういえば、ゲルダは途中で靴をプレゼントされたのに、最終的にはやっぱり裸足になっていました。

宮崎:作っている人間たちはよく心得て作っているよね。そういうところはいさぎよくて好きですけど。神話的な部分と物語を映画にするためにアレンジしていく過程で、アレンジする側の人間に湧き上がったものっていうのが、幸せに一致した映画なんです。

——神話的な部分というのは?

宮崎:川が靴を受け取ったあと、前綱がほどけて、船が川から流れていくようなところは、やっぱりアニミズムの神話的発想でアニメーションが作られている。アニメーションの元はアニミズムからきているんだろうけれども、川が靴を飲み込んで、かわりに女の子を船で運んでいくっていう物語の運び、神話的な運び方をアンデルセンの童話の中に取り入れたのは、すごいなと思います。

——山賊の娘についてはどうですか?

宮崎:自分の養母だか本当のお袋だかしらないけれど、おんぶされていて耳かなんかかじったりする乱暴な娘が、トナカイやらキツネやらウサギやら、そういうものを自分の配下において、捕らえて、そこで君臨していたのが、ゲルダの身の上を聞いているうちに、自分には想う相手がいないということに気付くわけです。いろんなものを支配しているつもりなのに、じつは一番望んでいたのは、檻や縄で捕まえておくことではなくて、想える相手がほしい

ということだったんだという。だからそれで「みんな出て行け!」と言うわけですよ。そういう愛し方しか出来なかった子なんです。だけど本当はそういう愛し方じゃないんだっていうことに気がついた子なんです。ゲルダは何も語らないけど、語らないことによって、山賊の娘で描かれているんです。

——ゲルダが山賊の娘の心を解放したということですか?

宮崎:凍りついた心は解けるんだって。その力をもっているのはゲルダなんです。なぜゲルダがもっているかっていうのは問わないんです。持っているんですよ。それはみんなの中に確実にある部分、世界の大事な一部だろうと思うけど、自分の中にあるのか、他人がもっているのか、あるいは自分の中にあるけど出口がないだけなのか。

——ところで、映画はどこでご覧になったんですか?

宮崎:東映動画に入社した頃、練馬の公民館で観ました。組合が何かの組織が上映会をやったんだと思います。吹替で観たんですが、そのあと東映動画でオリジナルを上映したときに、大きなテーブルコーダーで録音した先輩がいたんです。そのテーブルにはロシア語原盤の音声が入っていて、それを借りて、職場ですとつけていたんです。テープがのびきるまで聴いてた(笑)。何度も巻き戻して。だからちゃんと観たのは一回だけ。ロシア語原盤の音声を聴いているうちに、吹替は全部吹っ飛んでしまった。それで映画を思い出しながら音声を聴いていると、ロシア語っていうのは実に素晴らしいと思いますよ。

——ゲルダは自分勝手だという感想もありますが、どう思われますか?

宮崎:そういう反応があるのを聞いて、バクさん(高畑勲)が驚いたっていうのを聞いたことがあったけど、僕は全然驚かない。その観客がつまらない人間なんだっていうだけの話で。僕はそう思ってる。自分の想いを貫くためにまわり中ひどい目にあわせるっていう主人公を今まさに僕は作っているわけだから。ポニョっていう。本人はひどい目にあわせている気は全然ない。そういうものですよ。人に迷惑をかけていくの。生きていくっていうことは。

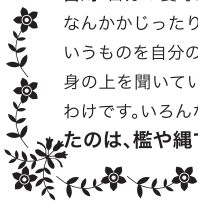
(2007.8.24.宮崎駿監督アトリエにて)

伝説から神話へ

雪の女王

作品誕生50周年記念
《新訳版》

1957年 | ソ連(ロシア) | 65分 | スタンダード | モノラル



この作品を観たのは二十年近く前だ。レンタルビデオ屋で妻が借りて来たこの「鉛の兵隊」を、その晩、何度も何度も繰返し、夜が更けるまで、ふたりで見返していたのを憶えている。

爆笑問題 太田光&光代夫妻

同時上映

鉛の兵隊

原作 | H.C.アンデルセン「鉛の兵隊」 監督 | レフ・ミリチン
原題 | СТОЙКИЙ ОЛОВЯННЫЙ СОЛДАТИК
1970年 | ソ連(ロシア) | 20分 | スタンダード | モノラル

12.15(土) クリスマス
ロードショー

特別鑑賞券 ¥1,300 11月1日より発売!
劇場窓口&ローソン店頭のLoppi (Lコード:37593)にて

※詳しくはオフィシャルHPまで www.ghibli-museum.jp/snowqueen/



渋谷区道玄坂1-18-3 フジビル37-B1

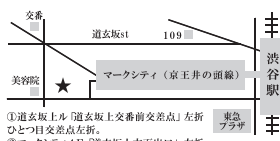
シネマ・アンジェリカ

TEL:03-5459-0581 <http://www.gojiyu.com/>

11:30 13:30 15:30 17:30 19:30

当日料金 一般・大学生 ¥1,500 小・中・高校生・シニア ¥1,000

© 2004 Films By Jove Inc. in association with Soyuzmultfilms studio



立川シネマシティ

TEL:042-525-1251

※詳しくは劇場に
お問い合わせ下さい。